

江雪こうせつ
(柳宗元りゅうそうげん)

千山鳥飛絶
萬徑人蹤滅
孤舟蓑笠翁
獨釣寒江雪

千山せんざん
鳥とり
飛ぶことと
絶えたえ

解説 一人の翁が静かに釣糸をたれる姿詠った詩。

万径ばんけい
人蹤じんしよう
滅すめつ

語釈 ※江雪Ⅱ川の雪。※千山Ⅱ多くの山。※鳥飛絶Ⅱ飛ぶ鳥の姿が全くない。※万径Ⅱ多くのこみち。※人蹤Ⅱ人の足跡。
※孤舟Ⅱ一そのの舟。※蓑笠Ⅱ蓑とかぶり笠。※寒江Ⅱ寒々とした冬の川。

孤舟こしゆう
蓑笠さりゆう
の
翁おう

通釈 多くの山々に飛ぶ鳥の姿もなく、道という道は雪にうずも

ひとりひと
釣るつ
寒江かんこう
の
雪ゆき

れて人の足跡も無くなってしまった。雪に閉ざされた中に、一その小舟を浮かべて、蓑と笠をつけた老人が寒々とした川で釣り糸をたれている。